

学 年

2年

## 【連立方程式】② 連立方程式とその解

年 組 氏名

1  $x$  と  $y$  の方程式  $3x + y = 10$  の  $x$  に、1 から 5 までの整数を代入したときの解をすべて書きなさい。

(1)  $x = 1$  のとき 答え (1, )

(2)  $x = 2$  のとき 答え (2, )

(3)  $x = 3$  のとき 答え (3, )

(4)  $x = 4$  のとき 答え (4, )

(5)  $x = 5$  のとき 答え (5, )

2  $x$  と  $y$  の方程式  $x + y = 6$  の  $x$  に、1 から 5 までの整数を代入したときの解をすべて書きなさい。

(1)  $x = 1$  のとき 答え (1, )

(2)  $x = 2$  のとき 答え (2, )

(3)  $x = 3$  のとき 答え (3, )

(4)  $x = 4$  のとき 答え (4, )

(5)  $x = 5$  のとき 答え (5, )

3 1 2 で求めた方程式の解について次の問いに答えなさい。

(1) 両方の方程式の解をしらべ、両方に共通な解を答えなさい。

答え  $x =$  \_\_\_\_\_,  $y =$  \_\_\_\_\_

(2)  に当てはまる言葉を漢字で書きなさい。

この2つの方程式に共通な解は  $3x + y = 10$  と  $x + y = 6$  を組にした  ① 方程式の  ② です。

答え ① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_

学 年  
2 年

## 【連立方程式】② 連立方程式とその解

年 組 氏名

[Point]

2つ以上の方程式を組にしたものを**連立方程式**という。これらの方程式を同時に成り立たせる文字の値の組を連立方程式の**解**といい、解を求めることを、連立方程式を**解く**という。

① 代入の計算をしているのに、文字が残っている人はいませんか？

(1)7 (2)4 (3)1 (4)-2 (5)-5

解説(1)  $3 \times (1) + y = 10$

$$3 + y = 10$$

$$y = 7$$

(2)  $3 \times (2) + y = 10$

$$6 + y = 10$$

$$y = 4$$

(3)  $3 \times (3) + y = 10$

$$9 + y = 10$$

$$y = 1$$

(4)  $3 \times (4) + y = 10$

$$12 + y = 10$$

$$y = -2$$

(5)  $3 \times (5) + y = 10$

$$15 + y = 10$$

$$y = -5$$

② 計算していくうちに、答えが一定の法則性を持つことに気づきます。これが関数につながります。

(1)5 (2)4 (3)3 (4)2 (5)1

解説(1)  $(1) + y = 6$

$$1 + y = 6$$

$$y = 5$$

(2)  $(2) + y = 6$

$$2 + y = 6$$

$$y = 4$$

(3)  $(3) + y = 6$

$$3 + y = 6$$

$$y = 3$$

(4)  $(4) + y = 6$

$$4 + y = 6$$

$$y = 2$$

(5)  $(5) + y = 6$

$$5 + y = 6$$

$$y = 1$$

③ たいへん大切な意味をもつ問題です。1次関数を学習した後に、もう一度ここに戻ってきましょう。

(1)  $x=2$  ,  $y=4$

(2) ① 連立 ② 解